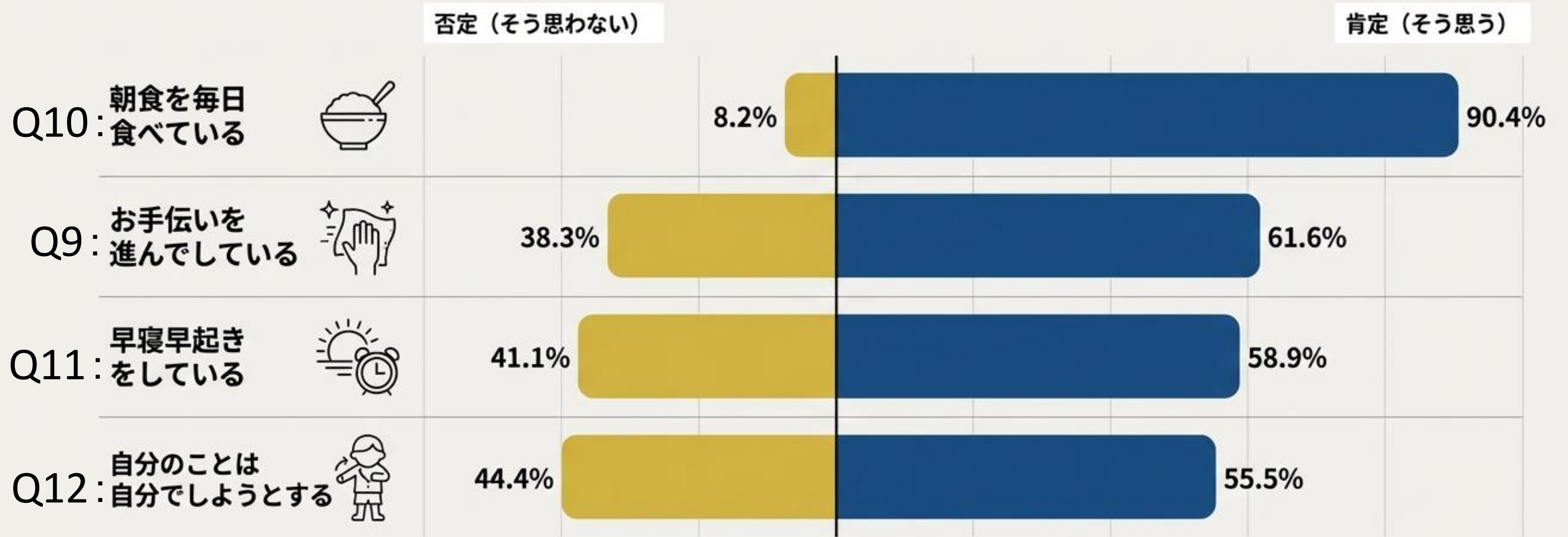


令和7年度 教育活動に関する アンケート（保護者） 結果報告

対 象：全保護者
時 期：2026年2月
回答率：64.6%
発 行：2026年3月



【子どもの姿：生活習慣】 基本的な生活リズムの確立に課題の兆し



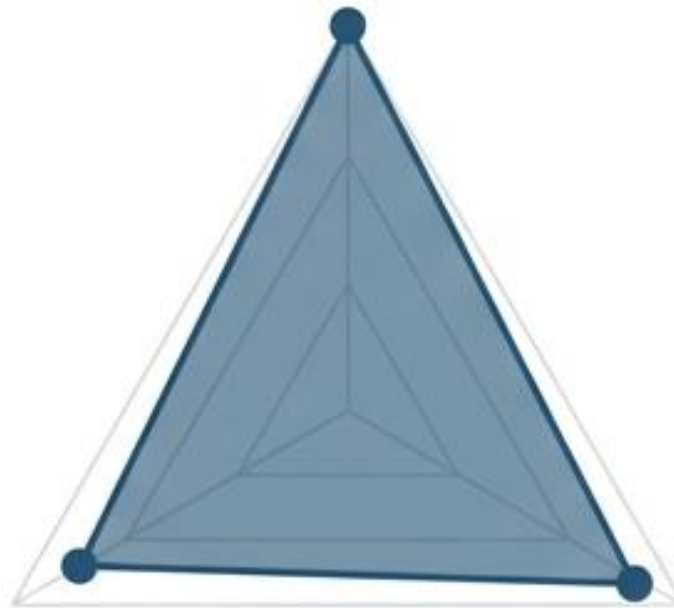
朝食の習慣は圧倒的に定着している一方で、「早寝早起き」や「自発的な整理整頓・お手伝い」に関しては、約4割の家庭で課題感を持たれていることがわかります。

【子どもの姿：社会性と学習】 他者への感謝は育つ一方、家庭での「読書習慣」に大きな壁

社会性の発達



Q5: 「ありがとう」が言える
(93.1%)



Q6:

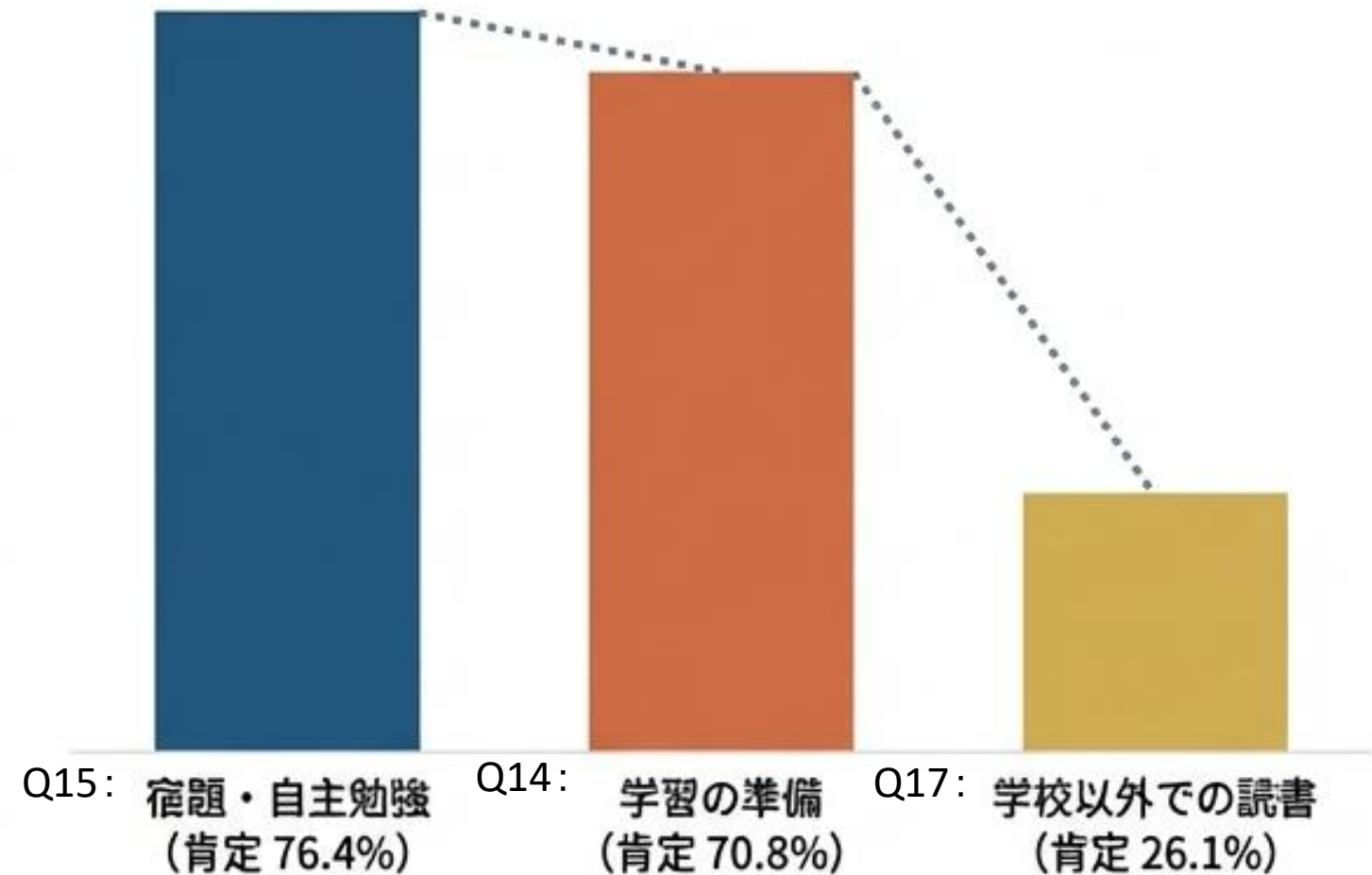
「ごめんなさい」
が言える
(84.8%)

Q8:

あいさつを
進んで
している
(80.8%)



家庭学習の定着度



感謝を伝える社会性は高く育まれています。しかし学習面では、宿題はこなすものの、自発的な「読書」の習慣が極端に低く、実に7割以上の家庭が「本を読んでいない」と回答しています。

【学校の取り組み：環境と指導】

安心・安全と一人ひとりに寄り添う指導への高い評価



Q23:

地域と連携した
体験活動・行事

98.7%



Q18:

安全な登下校指導

97.2%



Q19:

体力・健康づくり

94.5%



Q20:

一人ひとりに応じた
指導・支援

94.5%



Q24:

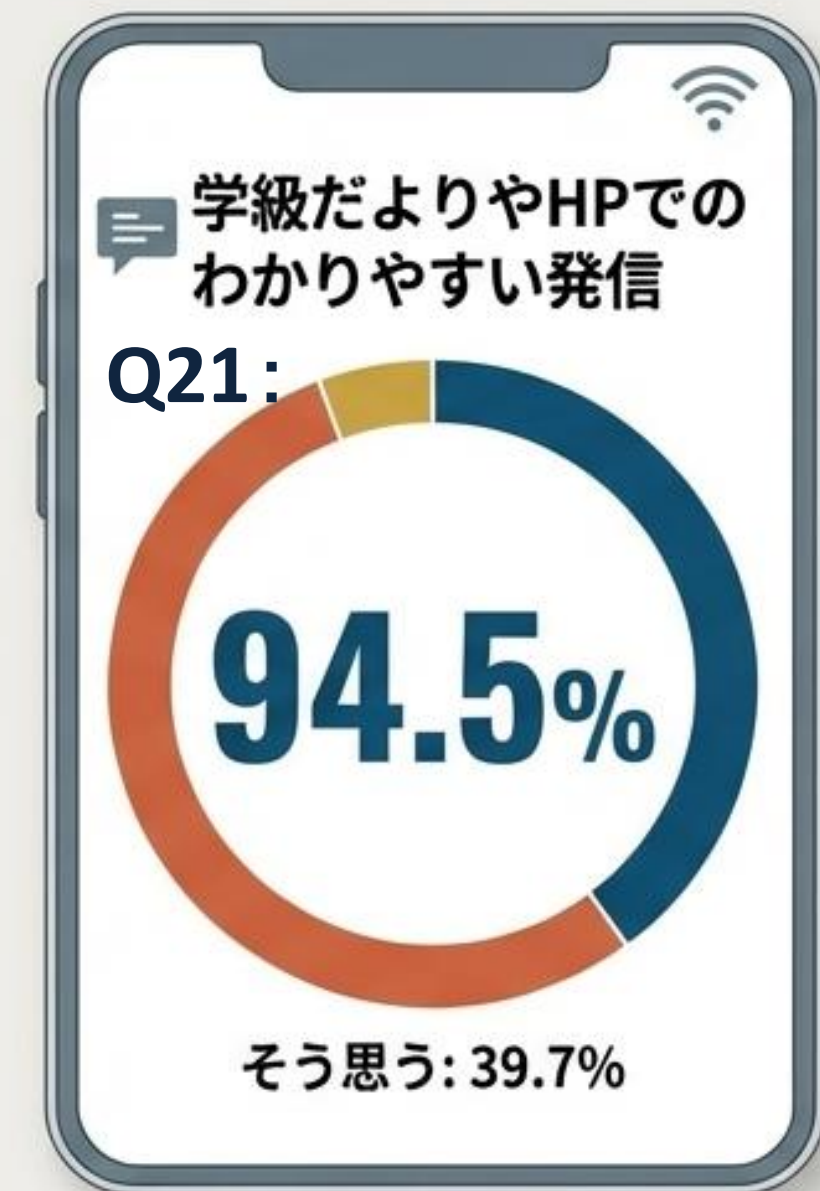
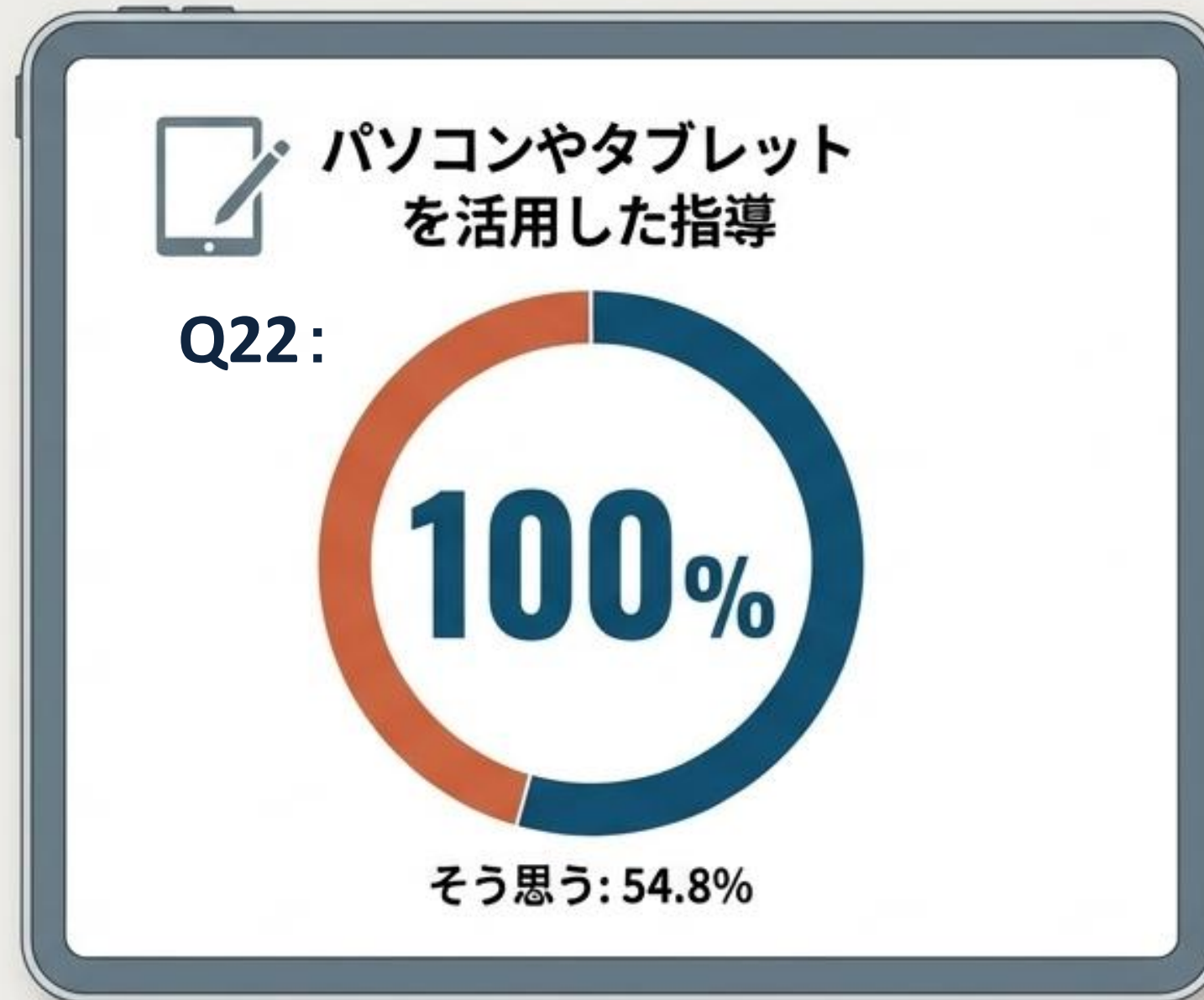
人権を大切にしたい
じめのない学校づくり

89.0%

肯定割合（そう思う・どちらかといえばそう思う）

学校が提供する基本的な教育環境、安全管理、そして地域連携に対して、
ほぼすべての保護者が強い信頼を寄せています。


【学校の取り組み：情報発信とICT】 デジタル活用が学校の明確な「強み」に



ICT機器を用いた授業の推進は、すべての保護者が肯定的に評価する最大のストロングポイントです。
また、家庭への情報発信の透明性も高く評価されています。

総括とネクストステップ

家庭でのアプローチ


強み
(現在できていること)

- 毎日の朝食習慣
- 学校生活を楽しむ前向きな姿勢


課題
(これから伸ばすこと)

- スマホやゲームから離れる「読書の時間」の創出
- 早寝早起きの習慣化
- 家庭内での役割（お手伝い）の決定

学校でのアプローチ

- ICT・タブレットのフル活用
- 安全な登下校指導
- 地域との連携行事

- 気候変動や実態に合わせた服装ルール（防寒着・体操服登下校）の柔軟な見直し
- 基準の明確な周知